

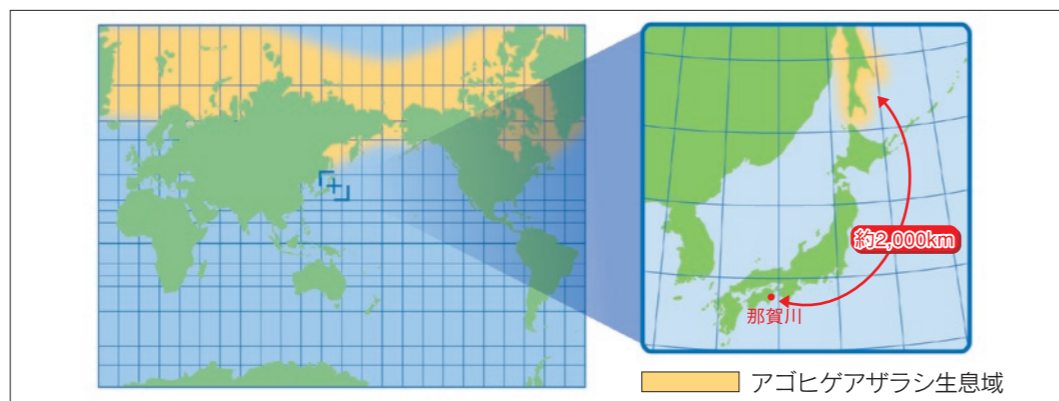
## 2.アゴヒゲアザラシに関する情報

平成17年11月2日早朝、阿南市那賀川町赤池地先（那賀川左岸距離標3k/4+100m付近）の中州上にて四国で初めてアゴヒゲアザラシが発見されました。その後、那賀川の「ナカちゃん」の愛称で親しまれ、多くの人々に愛されました。ここではアゴヒゲアザラシの生息地や生態等について紹介します。

### (1)アゴヒゲアザラシの生息地

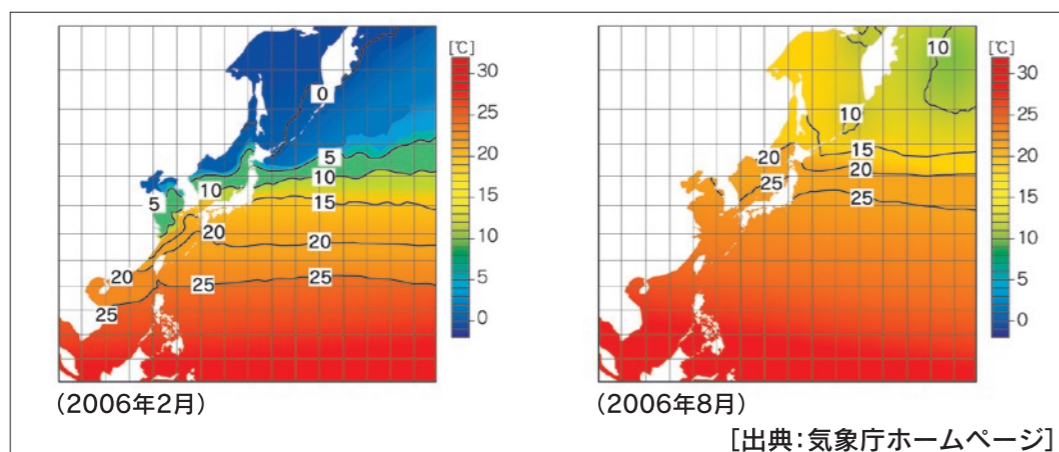
アゴヒゲアザラシの生息地は北極海が中心で、生息地の最南端はオホーツク海沿岸です。繁殖期は3月～5月で繁殖期以外は単独で行動し、生息地に近い北海道のオホーツク海沿岸には、離乳後の子供が少数現れます。アゴヒゲアザラシの体長は最大で2.5m、体重は雄260kg、雌360kgまで大きくなります。魚の他にエビやカニ、タコ、イカなどいろいろな海中の生き物を食べます。

ナカちゃんが過ごした那賀川下流部（中島地点）には、ボラ・マハゼ・クサフグ・モクズガニなどの魚介類が多く生息しています。



■アゴヒゲアザラシの分布図

オホーツク海沿岸の月平均海面水温は、冬場は5℃以下で夏場でも15℃以下となっています。一方、那賀川下流部（那賀川鉄橋地点）では、冬場の水温は8℃程度ですが夏場には25℃以上にまで上昇し、オホーツク海沿岸の夏場の海面水温を超えています。



■北西太平洋月平均海面水温

### トピックス

#### ■ナカちゃんの故郷 北極海の海水減少

ナカちゃんの生まれ故郷である北極海が環境破壊が問題になっています。ACIA（北極気候影響評価）報告書によれば、今世紀末までに地球温暖化により北極圏の海水面積が10～50%減少し、ホッキョクグマやアゴヒゲアザラシ、ゾウゲカモメ、セイウチなど様々な生き物が絶滅の危機に直面する可能性が指摘されています。

### (2)日本でのアゴヒゲアザラシの漂着事例

ナカちゃんがなぜ生息地を離れて那賀川までやって来たのか、詳しい原因はわかっていません。もともとアゴヒゲアザラシは北海道近海でたまに出現する程度ですが、若い個体が本州以南に漂着する例も報告されています。

国立科学博物館「海棲哺乳類情報データベース」によれば、1819年～2001年の間に16件のアゴヒゲアザラシの漂着が記録されています。

このほかにも、2002年に多摩川や荒川に現れた「タマちゃん」が記憶に新しいところです。



■アゴヒゲアザラシの漂着箇所

② 漂着とは、本来海にいる哺乳類等が海岸に打ち上げられることです。

### (3)ナカちゃんのプロフィール

ナカちゃんは河口から約3.5km上流の中州周辺によく姿を現しました。この中州と左岸寄りのコンクリートブロック上がナカちゃんお気に入りの休憩場所でした。また、時には河口から海の方へ泳いでいく姿も目撃されました。ナカちゃんが初めて確認された日から亡くなるまでの299日間のうち、ナカちゃんの姿が確認されたのは167日でした（那賀川河川事務所調べ）。



#### ★アゴヒゲアザラシ 愛称「ナカちゃん」

- 性別：雌
- 全長：188cm、胴回り110cm
- 体重：約100kg

